【用語説明】
〔E-1表〕
○悪性新生物：悪性腫瘍のことで、癌（ガン）と肉腫です。
〔E-3表〕
○定点報告：定点とは、インフルエンザなど感染症の発生状況を知るために、その情報を報告する病院（岡山市6病院）をさしています。感染症発生件数を病院数で割ったものが定点あたりの報告数です。

＜F　女性に対する暴力＞

社会に犯罪は各種ありますが、この中で女性に対する身体的・精神的・経済的暴力は女性の人権を傷つける最も重要な問題の一つです。女性がどのような被害を受けているのか、被害を受けた時の相談ができているのか、いつから被害を受けているのかなどの現状をみてみましょう。

【男はなぜ暴力をふるうのか】

F-1表で、警察の刑法犯の検挙状況から配偶者間の暴力についてみてみると、2001～2010年の10年間で被害者の9割は女性です。なお、警察が容疑者を検挙した数のため、実際発生している暴力のすべての数を表しているものではありません。

F-2表は、F-1表の2010年の暴力内容別の内訳を表しています。傷害が最も多く、暴行、殺人も発生しています。

【一人で悩まないで】

F-3表は、2004年12月から（配偶者暴力防止法に基づいて）DV被害者の相談業務をしている、岡山市配偶者暴力相談支援センターの相談件数の推移状況です。相談内容は、身体的暴力が過半数で、精神的暴力がこれに続き、この両方で約90%になります。2007年に1000件を超えて、2008年をピークに減少傾向にありますが2010年も依然として1,200件を超えています。

【あなたは悪くない】

F-4表は、内閣府の「平成23年度地域における男女共同参画連携支援事業」として「(社)被害者サポートセンターおかやま」が女子大学生の「性的被害関連経験に関する調査」を実施したものです。性的意味合いの言葉や身体の接触などの嫌な経験がある人は594人中266人。約45%に当たります。また、266人のうち、この経験を「性的な被害だ」とわかっているのは77人、約30%弱しかいません。さらに、この被害について誰にも話せない、相談もできない人が約22%（17人）いました。そして、後遺症が残ったという人も77人中42人います。

F-5表は、性的被害に関連する経験をした時期について示しています。小学校入学前から短大・大学まで何度も被害にあっているという人もいるようです。

【用語説明】
〔F-1表〕
○刑法犯：法律で規定されている殺人・強盗・放火・強姦・暴行・傷害・窃盗・詐欺などの犯罪。
〔F-3表〕
○DV：ドメスティック・バイオレンス。配偶者や恋人等、親密な関係にある人からの暴力的で相手を支配しようとする態度のことです。内閣府では「配偶者からの暴力」という言葉を使用しています。

＜G　社会福祉・社会保障＞

男女共同参画を推進するためには、社会福祉・社会保障に関する男女差を知ることは重要です。今回は、年々増加傾向にある生活保護と児童虐待についてみてみましょう。

【なぜこうなる福祉の現状】

G-1表で、生活保護を受けている世帯について2009年と2010年とで比べてみると、岡山市は2010年の方が12.3ポイント、912世帯増加しています。世帯別にみると、高齢者の世帯が最も多く障害者・傷病者が次に続いています。母子世帯は2010年には前年より0.2ポイント減って9.0%になっていますが、市の被保護世帯総数が増えていることから、母子世帯も686世帯から749世帯に増えています。

【児童虐待気づいた人がすぐ相談を】

G-2表は、岡山市が2009年に政令指定都市となってからの、岡山市と岡山県の児童相談所における、児童虐待相談対応件数の変化をみています。この1年で県はあまり変わりませんが、市は46件増え、約1.2倍となっています。

G-3表は、2010年のこども総合相談所での内容別対応件数です。男子の相談件数が女子の約1.3倍となっています。また、男子、女子ともネグレクト〔育児放棄〕が最も多く、次に心理的虐待となっています。この年、性的虐待は、女子のみにありました。

G-4表は、2010年の虐待の加害者を示しています。実母が約80%と最も多く、次いで実父となっています。この年は祖父母等からの虐待はありませんでした。

【用語説明】
〔G-1表〕
○被保護世帯：自治体ごとに審査をし、生活保護費を受給できると認められた世帯です。
〔G-2表〕
○こども総合相談所：岡山市では、児童相談所の名称を「こども総合相談所」としています。
〔G-3表〕
○ネグレクト：児童虐待、障害者虐待、高齢者虐待の一つです。児童虐待では「育児放棄」のことをいい、自分の子どもで、まだ身の回りのことができない幼児などの面倒をみず、放置しているような場合のことです。

－全体表記について－
・元データが元号の場合、西暦で表示しています。
・「性別」は「性、」と略して表示している場合もあります。
・割合の算出は小数第2位を四捨五入しているため、合計が100%とならない場合もあります。

「 岡山市ジェンダー統計リーフレット」の発行にあたって

この解説書は、リーフレット『岡山市の女性と男性2012』を読み解く際の助けとして、図・表の要点・用語等について説明するものです。リーフレットは、1．岡山市民の生活上関心が深い男女共同参画の現状を統計で表現すること、2．リーフレットの作成・分析・活用を通じて、岡山市の男女共同参画社会の推進に寄与することを目的に市民有志と岡山市が協働して作りました。

男女共同参画社会の推進に統計を道具として活用するとき、国際的にはこの統計を「ジェンダー統計」、この活動を「ジェンダー統計活動」とよび、国連を中心に大きな前進をみせています。今回のリーフレットづくりは、岡山市でのジェンダー統計活動の第一歩です。

◆リーフレット作成市民メンバー（敬称略、順不同）

内田　武宏	大倉　和郎	岡本　富美子
鬼木　のぞみ	隈元　夢希乃	崎本　とし子
杉本　慧子	角田　みどり	寺田　和子
万城　公美子	山口　陽子	和田　祥子

・法政大学名誉教授の伊藤　陽一さんには、2010年8月開講の岡山市男女共同参画大学講座「ジェンダー統計」に続き、「ジェンダー統計リーフレット作成グループ」の講師としてもご指導いただきました。厚くお礼申し上げます。
また、データ収集にご協力をいただきました独立行政法人国立女性教育会館（NWEC）、岡山県、岡山労働局、岡山弁護士会、その他関係機関の皆様に心より感謝申し上げます。

【問い合わせ先】
岡山市男女共同参画社会推進センター「さんかく岡山」
〒700－0822
岡山市北区表町三丁目14番－1－201号
TEL086－803－3355　FAX086－803－3344
E　mail：sankaku@city. okayama. jp

＜解説書＞

～岡山市ジェンダー統計リーフレットとあわせてご利用ください～

岡山市の女性と男性
２０１２

＜A　人口・世帯＞

岡山市の男女共同参画の現状や課題を理解するうえで前提となる基礎的なデータとして、人口と世帯の状況をみてみましょう。

【誰が支える高齢者の生活】

A-1表は、1980年と2010年とを比べています。
この30年間で、男女とも15歳未満の子どもの数は減少しています。しかし、65歳以上の高齢者数は大きく増加しています。2005年の平均寿命をみると、女性が男性より7.1歳長生きとなっています。

A-2表は、年齢3区分別人口による人口構成比を1980年と2010年とで比較しています。14歳以下の年少人口と、15～64歳までの生産年齢人口の比率が減少し、65歳以上の老年人口の比率は倍以上増加しています。特に、65歳以上の女性の比率は20%を超えていることがわかります。

A-3表は、岡山市と全国の合計特殊出生率の約20年間の状況を表しています。岡山市は、1990年の1.59から2010年には1.45まで下がっています。全国の1.39を上回っていますが、社会の人口構成を維持するには、2.1程度が必要と言われていますので、現状は随分少ない状況が続いていることがわかります。

【気になる単独世帯の未来】

A-4表は、2000年と2010年の世帯構成を比べています。いずれの年も構成割合が一番高いのは単独世帯で、2010年は10年前より4ポイント増え、28,787世帯の増加となっています。
A-5表は、単独世帯の状況を性別、年齢別に表しています。10年前に比べて男性は35歳以上の世帯割合が増えていて、特に55歳以上の増加が目立ちます。女性は65歳以上の高齢者が多いことが特徴となっています。

【用語説明】
〔A-1表〕
○平均寿命：ある年の男女別にみた年齢別死亡率が将来もそのまま続くと仮定して、各年齢に達した人がその後何年生きられるのかを示したものが平均余命。0歳児（出生時）の平均余命のことを「平均寿命」と言います。
〔A-2表〕
○年齢3区分別人口：年齢を、年少人口（0～14歳）、生産年齢人口（15～64歳）、老年人口（65歳～）の3区分に分けたものです。
〔A-3表〕
○合計特殊出生率：一人の女性が生涯、何人の子どもを生むかの推計で、15～49歳までの女性の年齢別出産率を合計したものです。

〔A-4表〕
○世帯類型別世帯：日本の「国勢調査」では1985年以降「一般世帯」と「施設等の世帯」に区分し、一般世帯は、世帯員の世帯主との続き柄により、次のように分類しています。(1)親族のみの世帯（核家族以外の世帯・女親と子供・男親と子供・夫婦と子供・夫婦のみ）、(2)非親族を含む世帯、(3)単独世帯。

〈B　労働と所得〉

女性が収入を得る働き方をしても経済的な自立ができていないということについて、労働力率、賃金、仕事と生活の希望と現実などから男女の状況を比べてみましょう。

【女性だって働きたいし、働き続けたい】

B-1表で、1990年と2010年の労働力率を比べると、男性は台形型で特に変化は見られません。一方女性は、2010年には全体的に労働力率は高くなり、M字型といわれる労働力率の変化は、底が35～39歳へと5歳高い方に移動しています。M字もはっきりした形でなくなってきていますが、男性との格差は依然として大きいままです。

【みんな大変、女性はもっと大変】

B-2表は、2010年の男女別、正規、非正規雇用者（パート、アルバイト、派遣など）の割合です。非正規雇用者の割合は女性が男性より圧倒的に多く、全年代で男性を上回っています。女性の非正規雇用者は20～34歳までを除くすべての年代で、正規雇用者を上回っています。男性は19歳以下と65歳以上のみ非正規雇用者の方が多くなっています。

【類をみない賃金の男女格差】

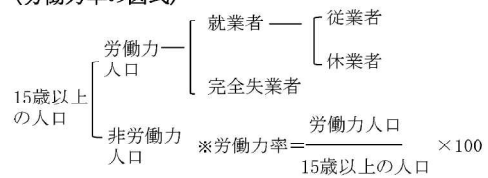
B-3表は、県内の企業（10人以上の全産業計）の短時間労働者を除く一般労働者に支給した2010年6月分の現金給与の平均です。男女とも50～54歳がピークで、男性が約40万円、女性が約26万円です。女性は男性の65%しかありません。また、男性の給与はピーク時まで右肩上がりですが、女性はほぼ横ばいとなっています。

【両立させたい仕事と生活】

B-4表は、2010年に岡山市が行った「男女共同参画に関する市民意識・実態調査」の結果です。これによると、男女とも「仕事・家庭生活」優先を希望する人が最も多くなっています。しかし、現実には女性は「家庭生活」と「仕事」、男性は「仕事」優先する人が多くなっていて自分の希望と現実はかけ離れています。

【用語説明】
〔B-1表〕
○労働力率：15歳以上の人口に占める労働力人口割合のことで賃金や営業収入など有償労働のみを「労働力」としています。就業者と完全失業者を含めて「労働力人口」とよびます。

（労働力率の図式）



〔B-2表〕
○正規雇用／非正規雇用：正規雇用者（正社員）は、雇用期間の定めのないフルタイム雇用者です。非正規雇用者（非正社員）は契約・嘱託・派遣社員、パートタイム雇用者、アルバイト等です。非正規雇用者の多くが、雇用期間が短く、低賃金で不安定な働き方をしています。
〔B-3表〕
○決まって支給する現金給与：労働協約、就業規則等によってあらかじめ定められている支給条件、算定方法によって支給される給与のことで、基本給、家族手当、超過労働手当を含んだ金額です。
〔B-4表〕
○ワーク・ライフ・バランス：ワーク（仕事：有償労働）とライフ（家庭生活、地域生活など）とがバランス（調和・両立）している状態のことです。

〈C　意思決定〉

男女共同参画社会では、すべての人に等しく機会が与えられることが大切と考えられています。そのためには、地方や地域の政治、行政、経済等の意思決定の場に女性がいることがとても大切です。岡山市の市議会議員選挙の投票率、議員数等から、女性の意思決定への参加状況をみてみましょう。

【未来の政策をつくるのは誰？】

C-1表は、1975～2011年までの市議会議員選挙の投票率の推移を男女別に岡山市と全国とで比べています。岡山市では女性が常に男性を上回っていますが、男女とも全国より低くなっています。1983年以降の投票率は70%から40～50%台まで岡山市、全国ともに低下しています。岡山市は2009年4月に政令指定都市となり、選挙区域の変更などがありました。

C-2表は、岡山市が政令指定都市になって初めて実施した選挙の結果です。女性の市議会議員は7名、女性割合は13.5%です。これは、全国19の政令指定都市の中で14位と低い位置です。

【意思決定の場にもっと女性を】

C-3表は、審議会等委員に占める女性割合を表しています。岡山市はほとんどが、政令指定都市の平均を上回っています。審議会等のそれぞれの委員総数は、建築審査会7人、教育委員会5人、都市計画審議会20人、人事委員会3人、固定資産評価審査委員会12人、選挙管理委員会4人、監査委員4人です。

C-4表は、社会的に影響力のある指導的地位のうちの9項目をとりあげています。岡山市の小学校長、副校長・教頭については女性が30%を超え、全国と比べても非常に高い比率を示しています。しかし、岡山市、全国とも中学校長、農業委員、課長級以上職員、町内会長は10%に満たないのが現状です。弁護士（岡山県）、市区議会議員、農業委員は2011年で、その他は2010年の統計です。岡山市の各指導的地位の総人数は、小学校校長91人、副校長1人、教頭106人、中学校校長38人、副校長2人、教頭45人、弁護士301人（岡山県）、市議会議員52人、農業委員66人、市役所課長級以上職員468人、町内会長1,716人です。弁護士は岡山市の統計数値が得られないため、岡山県の数値を使用しています。

【用語説明】
〔C-2表〕
○政令市：政令指定都市のことです。政令で指定する人口50万人以上の都市で区を設けることができます。1955年に名古屋市が最初に指定され、岡山市は18番目に指定されました。
〔C-3表〕
○都計審議委員：都市計画審議会委員のことです。

〈D　教育〉

生涯を通じて男女が平等に教育を受ける機会があることは大切です。また、教科担当者の性役割が子どもの将来の手本となる場合があることを考えると、教科担当の教員の構成比も重要です。教員の構成と生徒の進路状況からみていきましょう。

【変わらない教育界での性別役割分担】

D-1表は、岡山市内の幼稚園から高校までの教員の男女人数を比べています。幼稚園と小学校は女性教員が多く、男女差も大きくなっています。中学校、高校と高等教育に近づくにつれて男性教員が多くなっています。この傾向はこの10年間変わっていません。

D-2表は、岡山市の中学校教員の専門教科免許別の女性教員の割合を示しています。女性は家庭科を筆頭に英語、音楽、国語の順に高く、逆に技術、社会、理科の順に低いことがわかります。

D-3表では、岡山市内の高校に在籍する学科別の男女割合をみています。普通科への進学者は男女ともに50%を超えています。看護科、家庭に関する学科は女子が多く、工業に関する学科は男子が多いという男女差のある学科があることがわかります。男子は看護科に14人（0.12%）、家庭科に5人（0.04%）が在籍しています。

【男女とも性に関する相談ができる環境づくりを】

D-4表は、岡山市が中学2年生を対象に「性に関する相談のできる大人が身近にいるかどうか」を問うアンケート結果です。「相談ができる大人がいる」と答えたのは、2007年から2011年で女子は約8ポイント増加し60%を越えましたが、男子は2010年に13ポイント増加し50%に近づいたものの2011年には減少しています。2011年では、男子の約60%、女子の約40%は相談できる大人がいないということがわかります。どんな大人に相談しているのかは、調査されていません。

【用語説明】
〔D-2表〕
○主免許教科：中学校でいくつかの科目免許を持っている教員が採用時に担当する科目として届けた教科のことです。

〈E　健康〉

男性も女性も健全な生活を続けていくには、健康であることが大切です。死因や病院の受診率、性感染症別患者数、自殺の状況から男女の差をみてみましょう。

【健康から見える男女の生活スタイルは？】

E-1表の性、主要疾患別等死亡率からみてみると、男女とも悪性新生物が最も多くなっています。2009年の岡山市をみると、男女の差が大きい自殺は男性が女性の約3.6倍、悪性新生物は約1.6倍です。表は人口10万人当たりの人数であり、単位は「人」です。

次に、E-2表の、月間の入院患者、外来通院患者の数を2005～2010年でみると、外来では女性が多く、入院は男性が多くなっています。2008年以降、外来、入院は男女とも減っています。

E-3表の性、性感染症別10代患者数推移をみると、女性が男性より多くなっています。しかし、女性は全感染症に減少傾向が見られ、2010年には男女の差が小さくなっています。

【大切な命を守るには】

E-4表で自殺者についての状況を年齢階級別にみてみると、男性は40代と50代に多く、女性は30代、60代が多くなっていて自殺年齢に違いがみられます。2010年の岡山市の自殺者は男性が女性の約2.6倍にもなっています。

E-5表の、岡山市の性別、自殺の動機・理由割合をみてみると、男女とも健康問題が最も多く、女性では自殺理由の約半数を占めています。次いで女性は家庭問題、男性は経済・生活問題、家庭問題の順になっていて、男性と女性とでは動機に違いがみられます。なお、自殺の動機・理由件数については複数の場合もあり、総数は男性120件、女性53件です。